

## ○文部科学大臣、防災など特命担当大臣 で充実した政策実現

閣僚のポストを離れました。文部科学大臣、防災などの特命担当大臣の二つの役職を通じて、精いっぱい努力をしました。取り組んだ幾つかの政策が緒に就き、動き出してきたことに充実感を覚えています。

大震災対応では、「学校再建を端緒に、地域の復興を」と唱え、学校を中心にしたコミュニティ再生モデル事業が幾つか動き出しています。高校の授業料無償化も実現、地域全体で学校づくりを目指すコミュニティスクールも飛躍的に伸びてきました。何よりも力を入れたのは、大学の改革と同時にその国際化を進めるということです。改革に取り組む大学には、今年から積極的に予算付けをすることになったことから、大学が変わり始めました。

特命大臣としては、大震災の検証をしたうえで、これまでの日本の防災政策を徹底的に見直すこととしました。南海トラフ、首都直下地震、巨大火山の噴火など、専門家の指摘する最悪の事態に備えたハード、ソフトを合わせた対策を法律改正、予算、組織運営に反映させることに着手しました。同時に、国が一方向的に立案するのではなく、地方自治体や民間団体、企業など、皆が参加して作る防災政策であるべきだと思い、各地に広域のネットワークを立ち上げ具体的な活動が始まっています。さらに、大震災で特に問われた情報の共有化に向けて、あらゆる情報が地図上に示され、それが様々なメディアに共有されて国民に届く情報システム(GIS)の構築に着手しました。

防災の他にも、危機対応としては、高病原性(鳥)インフルエンザが変異して、人から人への感染が始まった時に備える特別措置法の国会成立を進めました。また少子化対策、男女共同参画の推進、新しい公共(NPOの育成)、定住外国人問題や自殺引きこもりなどに共通する社会包摂の課題など、これからの国の形にかかわる課題に取り組みました。私のモットーは、現場から直接情報をとること、参加型の政策立案に徹して、結果を出すこと。充実した仕事をさせていただけたことに、感謝しています。

## ○国会の道筋は、チキンゲーム

臨時国会、解散総選挙への道筋は、はっきりしてきません。党首会談では、自民党は、早期解散に向けて、その時期をはっきりさせなければ、赤字国債発行法や一票

の格差解消法などの採決には応じないと主張することが予想されます。野田総理は、解散の時期は明示しないと述べています。「赤字国債の発行を許容する代わりに、予算の修正や組み換えについて、話し合いで決着させるといっているのであれば協議をしよう。しかし、解散しなければ賛成しないというのは、筋違いもいいとこだ。」と、というのが与党の主張です。

ねじれ国会だから、ここがいつも争点になって、そのつど、総理大臣の首が差し出され、自民党の福田さんや安倍さん、麻生さんなどの時も含め、鳩山さんや菅さんに至る一年交代の総理大臣が続いています。これから、どっちが政権をとっても、ねじれを糸口に相変わらず一年交代の総理大臣にしてしまうとすれば、日本の国力にかかわります。財務省の苦悩はすでに始まっています。資金繰りができないということで、地方交付税の交付を遅らせ、政党交付金も予定通りではなくなってきました。自治体が福祉サービスや雇用対策の実施を見送ったり、国が生活保護費などの支給を停止したりする可能性もあります。こんな状況であるにも関わらず、国会の中で与野党がチキンゲームを続けることは馬鹿げています。安倍さんの周りにいる人々の良識に期待します。ここで一年交代の総理大臣しかできない日本の状況から卒業しなければ、日本の政治に信頼を勝ち得ることはできないという危機感を持って頑張ります。

## ○党務に戻って、選挙態勢づくり

党に戻って、次の仕事の準備をしています。党役員としては、財務委員長として、選挙資金などの配分について総括することになりました。特に、政党助成金など税金から賄われる運営費ですから、使い道についての透明性を確保することは、私の責任です。その他、災害対策調査会の会長として、今度は党のサイドから日本の防災計画の見直しをリードしていくことになりました。

今回は、選挙準備に、日本中を駆け巡ることになりそうです。しかし、前と比べると、少し時間の余裕もあるはずなので、精いっぱい、地元に戻って、みなさんの話をしっかり聞かせていただくことができると楽しみにしています。様々なお叱りを覚悟で、懇談会を計画します。ぜひ、ご意見をお聞かせください。

中川 正春